

研究課題	学校図書館の「学習・情報センター」機能の充実と ICT 活用との統合・融合
副題	～国際バカロレア教育における探究学習促進・情報活用能力向上を目指して～
キーワード	学校図書館 探究学習 情報活用能力 国際バカロレア
学校/団体名	私立学校法人津曲学園 鹿児島修学館中学校・高等学校
所在地	〒890-0023 鹿児島県鹿児島市永吉二丁目 9 番 1 号
ホームページ	<a href="https://www.shugakukan.ed.jp/">https://www.shugakukan.ed.jp/</a>

## 1. 研究の背景

本校で導入している国際バカロレア教育では、認定校になる要件の一つに「**図書館はプログラムの中心的な役割を果たしている**」と明記されている。その要件を満たしているかどうかの評価では、「図書館はクラス全体の学習の支援のためにどのように使用されているか？」が問われる。つまり、「学習センター・情報センター」としての機能を十分に果たすことを求められている。3年前、本校司書が全国学校図書館協議会発行『学校図書館』の特集「国際バカロレアを支える学校図書館」（2019年6月号）を参考にして、課題を提示したが、十分改善できていない。その後の生徒の学びや図書館の活用状況なども踏まえた、現状の課題は以下の通りである。

- ①授業時に学校図書館を活用しにくく、館内授業の頻度が低い。
  - ②生徒の端末やオンライン上で利用できないなど、学校図書館の蔵書検索が活用しづらい。
  - ③生徒の探究学習時、引用がネット情報のみのものが多い。
  - ④学校図書館をどのように活用し、どのような力を育むか、学校全体での共通認識がない。
- これらを改善し、図書館が中心的な役割を果たせるようにしたい。

## 2. 研究の目的

ICTも活用して、学校図書館の「学習・情報センター」としての機能の充実を図ると同時に、国際バカロレア教育における探究学習を促進し、生徒が主体的に学べる情報活用能力を育むことを大きな目的とする。他校からも聞かれる「探究学習時に引用がネット情報のみのものが多い」という課題に対して、最終的には、生徒がオンライン上の情報と図書館で得られる資料を活用し分けることができる情報活用能力を身につけることを目指す。

今年度は、上記の目的に向けた環境整備として、主に（1）図書館で授業を実施する環境を整えること、（2）図書館と生徒の端末とを結びつけることの2点を実現し、まずは図書館に足を運ぶ頻度を上げることを試みる。また、その過程において、図書館をどのように活用し、どのような力を育むか、学校全体での共通認識を持つことに近づいていけることを波及効果として期待する。

以上の目的や先述した背景・課題に即して設定した今年度の目標は以下の①～④である。

**目標①**：平均週1回以上、学校図書館が授業時に活用される。また、探究学習の発表会や自主的な学習会等を実施する際、会場のひとつとして学校図書館が使用され、それ以外の場面で

も図書館に足を運ぶきっかけとなることを波及効果として期待する。

**目標②**：生徒の端末から学校図書館の蔵書検索ができる環境が整備され、授業時にも教員が検索を促し、生徒が自宅や教室で資料を探して図書館に足を運ぶ機会が増加する。

**目標③**：生徒の情報活用能力が向上し、レポートなどを作成する際、ネット情報だけでなく、図書館を活用した結果得られた書籍などからの引用が増加する。

**目標④**：学校図書館をどのように活用し、どのような力を育むか、学校全体での共通認識につながる機会を持つ。

### 3. 研究の経過

表1は、今年度の研究の主な実践内容を時系列でまとめたものである。研究助成によって年度初めに図書館で授業を実施する環境を整え、図書館と生徒の端末とを結びつけることによって、生徒や教員が図書館に足を運ぶ頻度を上げる実践が主である。

【表1 研究の過程】

時期	取組内容 (→関連する目標)	評価・記録
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館で授業ができる環境の整備（プロジェクター・スクリーン・拡声器等の設置）(→目標①)</li> <li>・生徒端末からも蔵書検索ができるようにするため、「カーリル」等の導入検討・提案 (→目標②)</li> <li>・図書館オリエンテーション（中学1年、高校1年対象）(→目標③)</li> <li>・2022年度初めに配付した「教員向けの授業や指導での図書館利用についての案内」の内容を見直したうえで配付（含、図書館での授業実施のための手続き確認）(→目標①④)</li> <li>・各教科の授業と総合的な学習・探究の時間における図書館活用・指導（通年）(→目標①)</li> </ul>	記録・写真（1）  記録  資料・写真  資料  記録（表2）・写真
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の発表会を図書館でも実施 (→目標①)</li> </ul>	記録・写真（2）
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館活用に関する職員研修実施 (→目標④)</li> <li>・「授業時の学校図書館活用」の中間結果を校内に公表 (→目標①)</li> </ul>	記録（図2） ・写真（3）
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学1年生向け図書館活用・点検読書ワーク実施 (→目標③)</li> </ul>	記録・写真（4） （5）・アンケート
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの蔵書検索運用開始 (→目標②)</li> </ul>	記録（図1）
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際バカロレア認定校図書館視察・校内での共有 (→目標④)</li> </ul>	記録・写真
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館活用に関するアンケート実施（各教科の教員対象）(→目標①②③④)</li> </ul>	アンケート・自由記述
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシーを含む学び方のスキルに関する教員へのアンケート実施 (→目標③④)</li> </ul>	アンケート

### 4. 代表的な実践

#### (1) 図書館で授業ができる環境の整備と館内授業の継続的な実施

「授業時に学校図書館を活用しにくく、館内授業の頻度が低い」という本校図書館の状況を改

善するため、助成金を活用してプロジェクターとスクリーンを図書館に設置した。

(右の写真(1)にあるように、図書館の机の配置が極めて横長に広がっているため、プロジェクター・スクリーンを左右に2台設置し、授業で教師と生徒のやりとりができるよう、ワイヤレス拡声器も2台備えた。)

プロジェクター・スクリーンは移動可能なので、クラスを受ける生徒の人数によって場所を変えたり、1台のみを使用したりすることもある。また、プロジェクター・スクリーンを設置したことで、探究学習の発表会時に会場のひとつとして使用することができるようになった。写真(2)は、図書館での中学1・2年生探究学習発表の様子である。



【写真(1)】



【写真(2)】

上記の環境整備を進めたうえで、授業での図書館活用を呼びかけ、年間を通じて様々な教科・学年で図書館が活用されてきた。(表2参照) 必ずしも図書館の資料を活用することが主ではない授業でも、図書館で授業を実施することで本棚を眺めたり、本を手にとったりしている姿が見受けられた。

【表2 2023年度の館内授業の記録(9月抜粋)】

科目	学年	授業内容
古典	高3	平和に関するレポート作成 「平和」を探究する～軍記物語を糸口に～ 〈生徒に与えられた課題〉: 平和を奪われた人間や世の中について書かれている作品の分析を通して、「平和」について探究し、「平和」についてのレポートを提出する。
数学	中1	場所提供: 数学のグループワーク(グループで数学の問題を解く)授業の最後に、教員が生徒に本を紹介し、生徒の貸出につながった
学際	高1	数学と地学基礎による学際的単元 原発に関する探究学習 ディベートのリサーチ 「川内原子力発電所を停止(廃止)すべきか?」
国語	中3	石垣りんの詩:『挨拶』について、グループで問いを立て調べる
地理	高1	世界の気候、文化に関する探究学習
総学	中1	ミニ調べる学習に向けた点検読書、マングラチャート作成
社会	中1	移民に関するレポート作成

※9月以外も含めた年間の記録はこちらのリンク↓・QRコードから→

<https://drive.google.com/file/d/1if6KPlChD27JUhg4K2AOKPFD9usrjVeA/view?usp=sharing>



## (2) 図書館と生徒の端末とを結びつける取組

昨年度までは、図書館内に2台設置されたパソコンでしか校内の蔵書を検索することができなかった。今年度1学期中に「カーリル」導入を検討し始め、校内の図書館運営委員会や学園本部からの了承を得て、9月の職員会議で導入決定にいたった。

「カーリル」はウェブ上で検索できるため、当然生徒たちは、自分自身の端末から教室や家庭で検索することができるようになった。



これにより、「図書館と生徒の端末とを結びつけて図書館に足を運ぶ頻度を上げる」環境には近づいた。

【図1 本校のカーリル検索画面】

1月に実施した図書館活用に関する教員対象のアンケートでは、「本校図書館の蔵書検索ができるカーリルを授業で生徒に使う機会をつくったり、使うよう紹介したりしたことはありますか?」という質問に対して、「はい」と回答した教員は約30%だった。具体的には、「各授業で探究的な学習課題に取り組む際に活用するよう促した」という自由記述が複数あった。

## (3) 図書館活用についての職員研修会

夏休み中に職員研修を実施し、図書館活用について情報共有したり、話し合ったりする機会を持った。(写真(3))

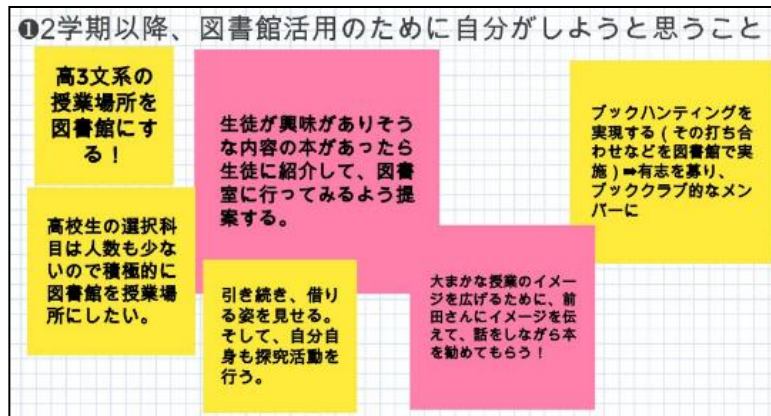
活用事例として①授業・単元づくりでの図書館活用、②授業での図書館活用、③図書館での生徒の成果物公開・展示を共有してもらい、自由な雰囲気質問し合ったり、意見を出し



【写真(3)】

合ったりして、最終的に2学期以降にどのような活用をしていけそうか、各自アクションプランを考えてオンライン上で共有した。(図2)

次に紹介する中学1年生の総合的な学習の時間での点検学習の実践も、この研修で話をする中で生まれた。



【図2 アクションプランの例】

#### (4) 中学1年総合的な学習の時間での図書館活用・点検読書ワーク実施

9月20日に、「ミニ調べる学習」の導入として、図書館活用・点検読書ワークを行った。

中学1年生全員85名が一度に図書館でワークを行うのが難しいため、前半後半に分かれて教室から移動してきて入れ替わるかたちにした。さらに、興味あるテーマについて選書をするのも、点検読書をするのも初めての生徒が多く時間不足ぎみの様子だったが、短い時間で本のポイントをつかみ、書籍で調べる経験を積むことができた。

##### 【2023年9月実施の中学1年総合的な学習の時間でのワークの実施概要】

<p>中1総学 図書館活用・点検読書ワーク</p> <p>〈ワークの目的〉 ①自分の興味関心を探る。 ②読書技術、メディアリテラシーを向上させる。</p> <p>〈この時間の目標〉①これからの「ミニ調べる学習」で取り組んでみようと思うテーマをひとつ決め、そのテーマに関する本を図書館で1冊選ぶ。 ②点検読書を経験し、やり方を理解する。</p> <p>〈この時間の流れ〉①「ミニ調べる学習」と点検読書について説明→②図書館で選書 / マンダラチャート作成→③点検読書→④振り返り</p>
--



【写真(4)】



【写真(5)】

写真(4)は選書中の様子である。スクリーンで探し方などを提示したり、司書によるレファレンスを体験する場面もあった。写真(5)は点検読書の様子である。ワークシートに書く必要な情報を探すために、目次や「はじめに」、奥付などを読む方法を経験した。

振り返り際には、「情報を得るのに、本とインターネットをどのように使い分けると良いと思いますか？」という質問に対しても書いて考える機会を設けた。

学校図書館をどのように活用し、どのような力を育むか、学校全体での共通認識をつくっていくことに向けて、総合的な学習の時間に学年の複数の教員で実践することで、図書館活用の在り方を考える機会にもなった。

## 5. 研究の成果

本研究の目的に即して設定した今年度の目標①～④に対して、それぞれの結果を示す。

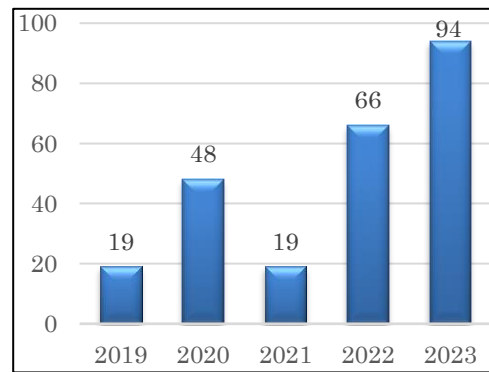
**目標①**：平均週1回以上、学校図書館が授業時に活用される。また、探究学習の発表会や自主的な学習会等を実施する際、会場のひとつとして学校図書館が使用され、それ以外の場面でも図書館に足を運ぶきっかけとなることを波及効果として期待する。

**目標②**：生徒の端末から学校図書館の蔵書検索ができる環境が整備され、授業時にも教員が検索を促し、生徒が自宅や教室で資料を探して図書館に足を運ぶ機会が増加する。

(目標①②に対する結果)

今年度の図書館整備の主な計画であった「まずは図書館に足を運ぶ頻度を上げるため、(1) 図書館で授業を実施する環境を整える、(2) 図書館と生徒の端末とを結びつける」という点については、これまで述べた通り順調に進めることができた。

プロジェクターとスクリーンを図書館に設置したことで、図書館で授業を実施するだけでなく、探究学習の発表など、活用の幅も広がり、図書館で授業や学習活動をする機会は確実に増えた。館内授業の状況は図3のようになっており、昨年度、一昨年度はコロナ禍の影響もあり、単純に比較することはできないが、昨年度や一昨年度の年間利用回数を上回っている。「最低1週間につき1回は館内授業を実施する」という目標を大きく超えている。



【図3 年度毎の館内授業時数】

また、図書館と生徒の端末とを結びつけるために、「カーリル」を活用し、生徒の端末からも学校図書館の蔵書検索ができるようにする手続きも順調に進み、実際に活用されはじめている。

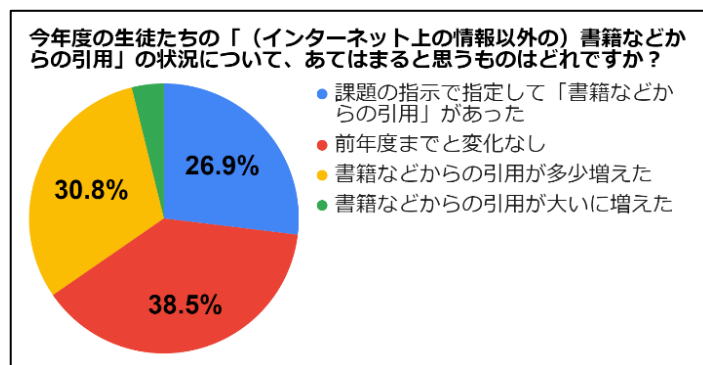
「カーリル」での検索結果は、校内の図書館だけでなく、鹿児島県立図書館・鹿児島市立図書館・鹿児島国際大学附属図書館の蔵書も表示される。生徒たちがそれらの図書館から書籍を取り寄せて借りる等、公共図書館との連携にもつながることを期待できるようになった。生徒たちが図書館活用によるメリットを実感できる機会が増えることで、学校図書館に足を運ぶ頻度が上がるという目標にもつながり得る。

以上のように、図書館に足を運ぶきっかけをつくるために図書館と蔵書検索の環境整備をするという目標に対して、今年度の明確な成果、及び今後につながることを期待できる成果があった。

**目標③**：生徒の情報活用能力が向上し、レポートなどを作成する際、ネット情報だけでなく、図書館を活用した結果得られた書籍などからの引用が増加する。

(目標③に対する結果)

1月末に実施した教員アンケートの結果は図4に示された通りである。4割は前年度までと変わらないという認識であるが、3割ほどが書籍などからの引用が増えたと回答している。また、課題の指示で書籍からの引用を求めている教員も一定割合いることがわかる。



【図4 書籍からの引用についての回答結果】

目的のひとつであった「生徒が探究的な学びの中で実際に図書館を活用する経験を通して、そ

の価値を実感する」という点も生徒の情報活用能力につながるものであると考える。中学1年生の総学で実施した点検読書を経験するワークでのふりかえりに書かれていたことに、成果が表れているものがあった。例えば、「今まで、あまり本を使わずインターネットで調べ物をしていたが、今日で本のわかりやすさがわかった。これからも本を活用していきたい。」のように、そもそも小学校でも本で調べ物をした経験が乏しい生徒もいる。そのような生徒でも実際に図書館を活用する経験を通して、このように価値を実感できている。また、「自分の好きなことを本で調べることはあまりなかったので、本で調べることの楽しさを知れて良かった。」のように、価値だけでなく「楽しい」という感情が書かれているものも複数あった。中学段階でも経験する機会を与えることで、本で調べる価値や楽しさを実感できるのだと分かった。

以上のように、(1) 書籍からの引用が増えた生徒・クラスが存在する、(2) 書籍とオンライン上の情報両方にアクセスして適切な情報を選択するという情報活用能力の一部が向上した、(3) 生徒がその価値や楽しさに気づく場面があった、といった成果が一部に見られた。

**目標④**：学校図書館をどのように活用し、どのような力を育むか、学校全体での共通認識につながる機会を持つ。

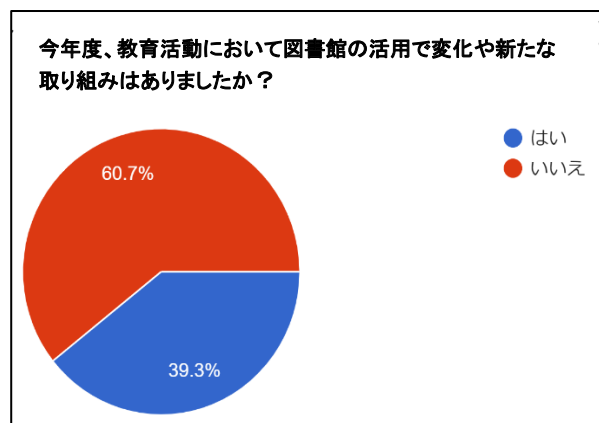
(目標④)に対する結果)

1月末に実施した教員アンケートで「ご自身の教育活動（授業、授業準備等）において図書館の活用で変化や新たに取り組みがあったか」をたずねたところ、図5にある通り4割程度が肯定的な回答をしている。

「どのような変化があったか？」をたずねた自由記述では、生徒に書籍の引用を推奨したり、課題で必須としたりしているという意見が複数あり、「教員自身が図書館を『もう一つの

教室』という視野が持てた。」という答えもあった。未だ「共通認識に至る」という段階ではないが、「共通認識につながる」と期待できる変化が見られる。

以上のように、今回の実践研究に取り組んだことや、夏に実施した職員研修が「学校全体での共通認識につながる機会」となったと考えられる。特に、本実践研究についての校内周知やアンケート実施・報告などのやりとりを通して各教員が図書館活用についての振り返りや対話を行う機会が生まれていることを実感した。



【図5 活用についての回答結果】

## 6. 今後の課題・展望

現状としては、未だに生徒の成果物に挙げられる引用・参考文献がインターネット上の情報に偏り過ぎている傾向がある。書籍からの引用・参照はまだまだ少ない。最終的に目指す「生徒がオンライン上の情報と図書館で得られる資料を活用し分けることができる情報活用能力を身につける」ためには、インターネットと図書館・書籍のバランスを考えると、初めは図書館・書籍

を活用する経験は意識して設定する方がよいのではないかと考えている。

中学1年生の総学で実施した点検読書を経験するワークや、「ミニ調べる学習」の取組を始めたのは成果と言える。今後、実践を継続し、中高6年の初期にそのような学習活動を行うことで、その後の探究活動にどのように結びついていくか、効果を評価することが課題となる。

図書館をどのように活用し、どのような力を育むか、学校全体での共通認識を持つにはもう少しばらく対話や実践の積み重ねとふりかえりが必要だと感じる。今回の実践研究や報告書も、その材料のひとつになると期待する。場所的には校舎の端に位置する図書館ではあるが、学びにおいては中心・ハブとなり、様々な面で学びにつながりが生まれることを期待して今後も実践を積み重ねていきたい。

## 7. おわりに

今回も、実践研究に取り組むことで校内に生まれる対話やアンケートを通して振り返る機会、他校との情報共有などのメリットを強く感じた。実践研究に取り組んだことで、校内で図書館や探究的な学びについて意識し議論する場面が生まれたこと自体が「図書館はプログラムの中心的な役割を果たしている」という状態に近づくために意義あることだったと感じる。

元々は予定していなかった校外の書店での「選書ツアー」実施（視察訪問した先進校の事例を参考）は、生徒が図書館を身近に感じるとともに「図書館をいっしょにつくる」機会のひとつにもなった。

また、本助成をきっかけに、公益財団法人図書館振興財団の「第27回 図書館を使った調べる学習コンクール（調べる学習指導・支援部門）」に初めて応募した。（テーマ：『学びのつながりを促す学校図書館へ～ 館内授業の環境整備・授業とつながりあるテーマ展示・学ぶスキル育成等を通して～』。審査結果：佳作。）本助成での実践も含めて、本校の図書館に関する取組を全体的に整理し、今後の長期的な展望を考える機会となった。

最後になるが、いっしょに実践を進めてくれた本校司書や教職員、協力いただいたパナソニック教育財団、及び「オンライン・サポート」や、はるばる鹿児島にいらした際に来校して下さった時にも的確な助言を下さった木原俊行大阪教育大学教授に心から感謝したい。

## 8. 参考文献

- ・アンソニー・ティルク著・根本彰監訳（2021）『国際バカロレア教育と学校図書館 探究学習を支援する』学文社
- ・片岡則夫（2021）『マイテーマの探し方 探究学習ってどうやるの？』筑摩書房
- ・国際バカロレア機構（2014）「MYP：原則から実践へ」  
<https://www.ibo.org/contentassets/93f68f8b322141c9b113fb3e3fe11659/myp/myp-from-principles-into-practice-2018-jp.pdf>
- ・文部科学省(2018)『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東山書房
- ・全国学校図書館協議会発行『学校図書館』（2019年6月号）特集「国際バカロレアを支える学校図書館」